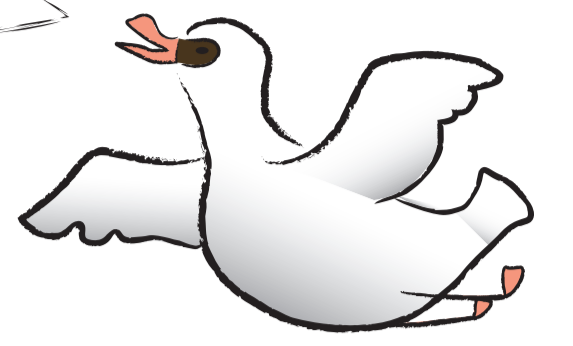




じめん ほ
 どうして地面を掘ったのかな？

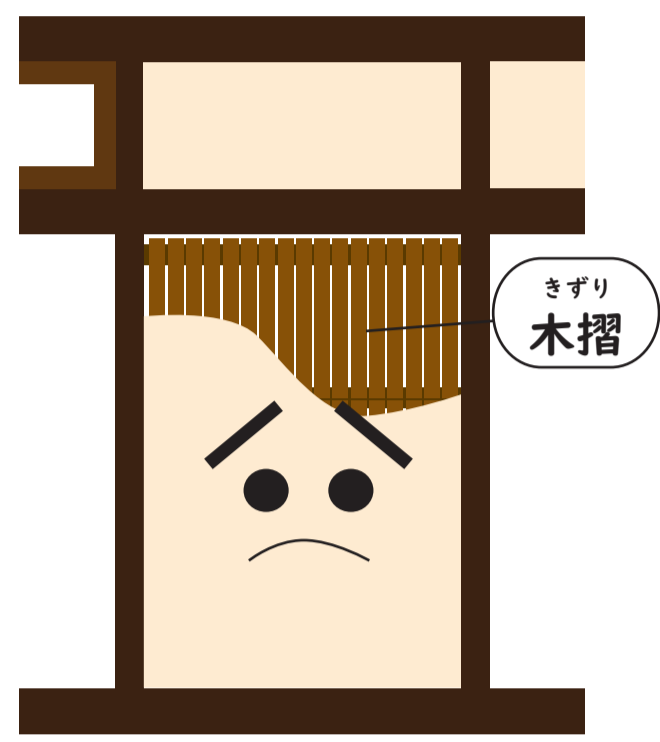
たいしん ほきょう こうじ ち か おもし もうけ
 耐震補強工事で、地下に重石を設ける
 ひつよう
 必要があるからだよ。



今回工事における耐震壁設置工事の方策

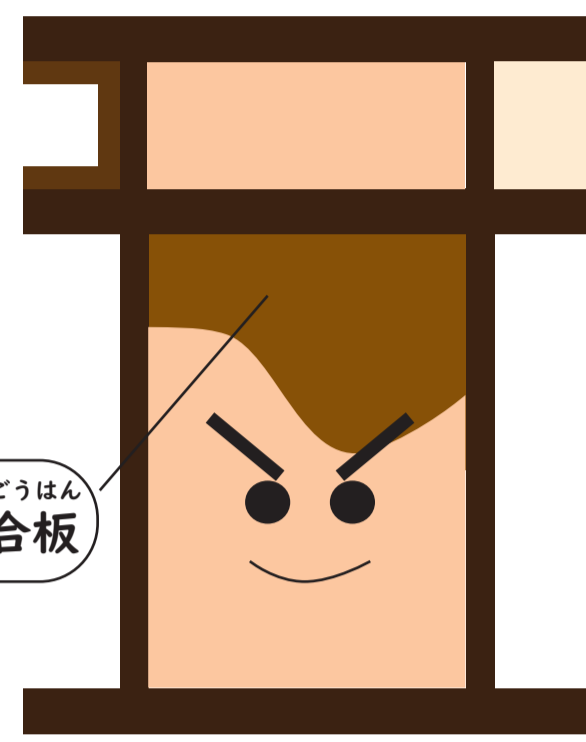
げんざい かべ きずり かべ
 現在の壁（木摺壁）

よわ かべ
 弱い壁



たいしんへき こうぞうようごうばん
 耐震壁（構造用合板）

つよ かべ
 強い壁

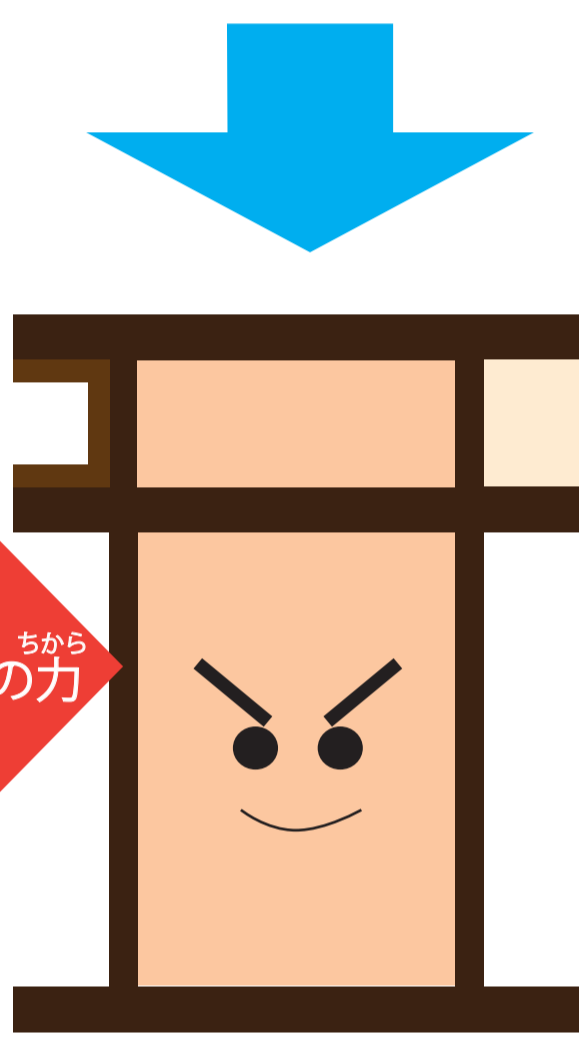


たいしんへき かべ
 耐震壁にする壁
 こうじまえ きずりかべ
 （工事前：木摺壁）

おもし せっちようくつきく かしょ
 重石設置用掘削箇所
 しほんじ いこうけんしゅつ
 （四半敷き遺構検出）

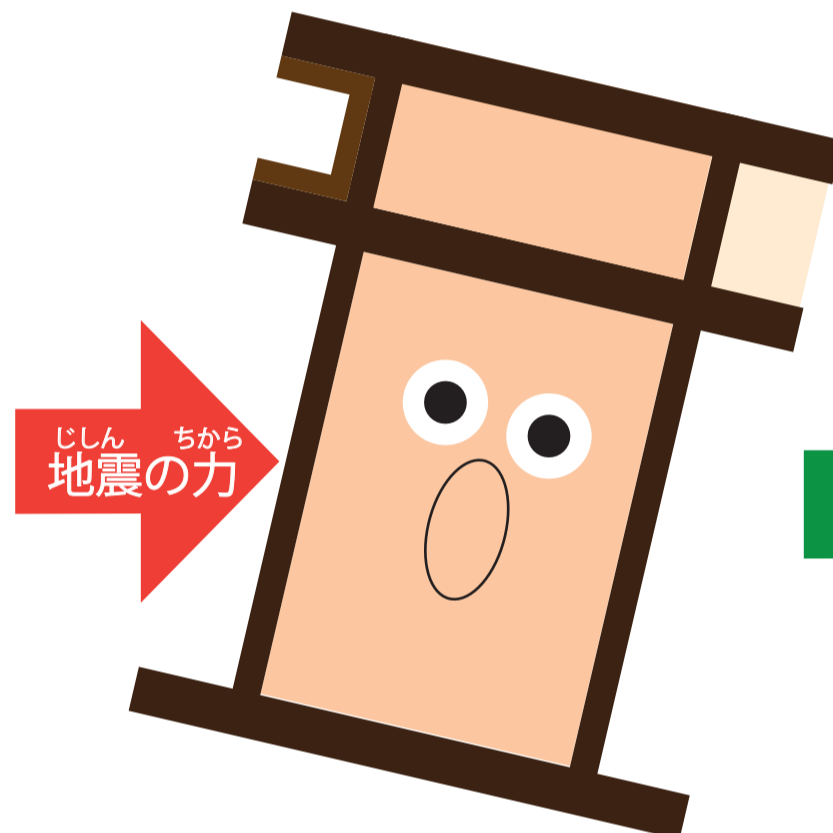


つよ ちから た
 強い力に耐えきれず
 こわ
 壊れてしまうかも

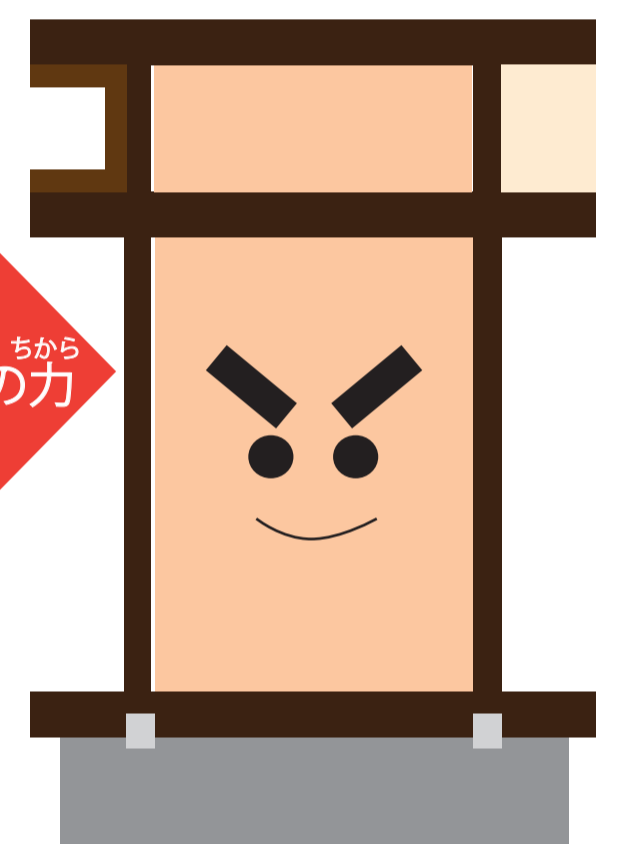


がんじょう こわ
 頑丈なので壊れない

※表面の見た目はあまり変わりませんが、
 ここでは分かりやすくするため色を
 変えてあります。



かべ こわ ちから ま かべ
 壁は壊れないが、力に負けて壁ごと
 う 浮き上がってしまう可能性がある



ちか てっきん こうくりいとのおもし もう
 地下に鉄筋コンクリートの重石を設け、
 おもし かべ
 重石と壁をつなぎ、浮き上がりを防ぐ

りんしゅんかく あ ひ すがた
 臨春閣；在りし日の姿 Rinshunkaku in its former days...

せんぜん ようす
 戦前の様子



北尾春道編「数寄屋住宅聚 書院式数寄屋」（昭和11年、洪洋社）

ゆかめん しはんじき
 かつての床面；四半敷

せんぜん しゃしん ゆかめん しはんじき わ
 戦前の写真から、かつて床面は四半敷きであったことがわかっていま
 しはんじ いしじ かわらじ めじふち たい ど
 した。四半敷きとは、石敷き・瓦敷きで、目地が縁に対して45度にな
 るように斜めに敷いたものことで、以前の玄関棟の床の素材は不明
 なな し いぜん げんかんとく ゆか そざい ふめい
 でした。発掘の結果、スレートが使われていたことが分かりました。

せんご ようす
 戦後すぐの様子



写真提供：奈良文化財研究所

だいいちおく
 第一屋

だいいちおく
 第二屋

げんかんとく そんざい
 このあたりに玄関棟が存在

しょうわ こうしゅう さんけいえんない おお ひがい こうむ めっしつ
 昭和20年の空襲により三溪園内は大きな被害を蒙り、滅失・
 しょうしつ りんしゅんかく だいいちおく だいいちおく
 焼失してしまった建物もあります。臨春閣の第一屋・第二屋・
 だいさんおく はんかい とど しゅうり おこな げんかんとく かんぜん
 第三屋は半壊に留まり修理が行われましたが、玄関棟は完全に
 はかい うしな あたら た
 破壊され失われてしまったため、新しく建てられました。